

# 琉球大学学術リポジトリ

## 羅布桑却丹著『蒙古風俗録』（六）

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学教育学部 公開日: 2010-10-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 辻, 雄二, Tsuji, Yuji メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/18229">http://hdl.handle.net/20.500.12000/18229</a>

羅布桑却丹著『蒙古風俗録』(六)

辻 雄 二 訳

**Mongrol-un jang arali uileburi**  
**by Lubsangcoyidan**

Yuji TSUJI

## 羅布桑却丹著『蒙古風俗録』(六)

辻 雄 二 訳

## 第四十六章 鄂博競馬

蒙古族は古代より山河の神々の加護によつて、平安でいられると信じてきた。そのため各部落にはみな顎博が一つ祀られており、四季の折々に祭祀がおこなわれてきた。この鄂博の風俗は、喇嘛教が蒙古に入教する以前、風習として伝えられてきたものである。顎博は三種類に分けられ、それぞれ国家の顎博、旗の顎博、そして部落の顎博がある。一年の期を定めておこなわれる祭祀の時には、顎博のところに人々が集まり、そろつて祝賀の儀式がおこなわれる。この鄂博祭祀の儀礼はとても慎重に守られ伝承されてきた。このような顎博には皆名があり、国家の顎博であれば「阿爾坦顎博」と呼ばれ、また別の部落の顎博などは、その土地の名を付けて何々顎博と呼ばれている。鄂博は蒙古語では土の堆積を意味し、「阿爾坦」は金を意味するため、天地の神を祀り奉る所を尊び「阿爾坦顎博」という尊称でいう。

毎年春と秋の両季の祭祀には、祭りを担当する官吏が阿爾坦顎博の前に立つ。春は三月十五日或いは四月十五日に集まり、秋は七月十五日或いは九月十五日に集まり、それぞれ随時天候や寒暖を見ながら日を定め鄂博祭祀がおこなわれる。顎博祭祀には専ら牛や羊、酒等を供物として用いる。規模の大きな顎博祭祀では、牛を幾頭も用意し、羊を数十匹と米酒や茶を按配する。そして鄂博祭祀の時には、旗主と長官はみな顎博に集まり来る。さらに各部落の良馬群を上手に育てる者等は、早く

から特に良い馬を選び抜き、顎博祭祀で開かれる競馬に参加し、各々の良馬はそこで強弱を競い合う。また顎博祭祀の祭りは、蒙古では賑やかな行事と言われている。それは一日と雖も、その挙行による影響は大きいものがある。たとえば外からやつて来る馬の仲買人などは、顎博祭祀の会場に総て集まり来て、初めてそこでよく走る良馬を見つけることができるのである。つまり普段は馬の市が立つこともないが故に、この顎博祭祀の祭りでなければ、一斉に馬が群集まるところは見ることができないのである。顎博祭祀の祭りは午前の辰時に集まり始められると決められ、午後の申時には散会となる。そして正午には顎博を祀る儀礼がおこなわれる。その日、顎博の傍には鍋が設えられ、牛や羊を丸ごと煮込み供物にされる。祭祀の後、その煮汁で粥を作り、供物とされた牛と羊の腸や肝といった内臓と肉を、すべて均等に薄切りして柳の枝で串刺しし、それぞれ人数分に欠けることなく平等に分けて配られる。但し羊頭と羊の「烏義」だけは長官の分として特別に留め置かれる。長官はその烏義を食べることはせずに、専ら競馬の優勝者の褒美に当てられる。こうして人々はそれぞれ一串の肉を貰い、木碗を手に鍋の所へ行き肉粥を貰うと、各自其処此処に座し食す。年長者は皆が揃つて同じ物を食べているのを見渡し、食べ終わるのを待つて競馬の準備に取りかからせる。次いで参加者は八里以外の所に並び、一回に十頭か二十頭の馬が、顎博の前の境界石を目指し一斉に走り出す。そして飛ぶようによく駆ける最も速い馬には、羊の烏義が褒美として与えられる。それに次ぐ二等の者

には羊の後ろ脚が一本、三等の者には羊の胸肉が与えられ、この三種類の肉が競馬の褒美とされる。

馬の試合時には、幾人かの者が速い馬を駆って、参加馬を監視するために眺め渡す。そしてどの家の馬か、何色の毛をしているか、走る姿はどうかといったことなどを見ながら、先頭で着く馬を判定する。そして偏ることなく裁定を下し、よく走る馬には毛色によって名前を付けたりする。長官たちは皆顎博の前に揃って並び立ち、その試合を観戦する。試合に参加する者には、十三、四歳の幼き男児が選ばれるが、いず

れも鞍をつけずに裸馬に乗って試合の開始に備える。出発係の者が鞭を振り挙げ声を放つと、一斉に走り出し、皆声を挙げながら急いで馬に跨る。そして大声で叫びながら、顎博の前の境界石に先頭で着いた者が、一等で名馬とされる。

この時各種の毛色をした馬から三種を選び出し、それを名馬とする。

一、毛並みが良く、色が純色で優れて美しく、一步毎に四足ともに地上から離れて駆ける最も速い馬

二、毛並みが良く、体格が大きくて威勢があり、足の運びが大きく駆ける馬

三、毛並みが良く、斑模様が綺麗で体格は肥えており、足の運びが小さく速い馬

この三種類の馬以外の馬からは、体格と走る姿で良し悪しを判断し、毛並みなどは問わない。

また馬の走り方の状態や、速いか遅いか、あるいは強いか弱いかによつてそれぞれ名が分別され異なってくる。

大きく首を振る馬 小小さく首を振る馬 軟らかく首を振る馬 飛ぶように駆ける馬 ゆっくりと駆ける馬 流れるように首を振る馬 飛び跳ねるような馬 落ち着きのない馬 頭を大きく蹴らせる馬

持久力のある馬 体が高く前のめりの馬 急に立ち止まる馬 物を見間違える馬 嘶く馬 突然驚き暴れる馬 あちこち素速く動く馬 頭を揺らす馬 鐘をぐるぐる回す馬 必死に跳ねる馬 後ろ脚を蹴り上げる馬

このような種類の馬について体格の良し悪しや走る様子、あるいは病気などの状態が、顎博祭において衆人の面前でおこなわれる競馬で試される。そしてその中から良い馬が選ばれ、馬の売買人に何頭かが買われていくという風俗である。

定めに則つて顎博の祭祀日が決められると、風雨であろうと間違ひなくおこなわれる。その日人々は総出で鄂博を拝み、山河の神々を誠心誠意祀る。春秋の鄂博祭祀の祭りには、周囲二百余里以上離れた所からも人々が来て、鄂博祭でおこなわれる競馬を見て、どこに良馬がいるのかを知る。しかし集まり来る者にもただ一つの重い定めがある。それは、もし顎博祭祀の時に該当する部落の長官或いは年長者等が所用で来られない時には、責任者は鄂博に供える長さの揃えられた牛と羊の肉と腸詰めを串刺しにして、人数分に按配し分ける。そして参加できなかつた者の分を、祭りが終わった後にそれぞれ送り届けることが大切な礼とされる。もし送り届けない家などがあれば、責任者は罰として羊一頭を納めなければいけない。このようにその定めに背き違えて祭祀の供物を送らぬことはない。鄂博の祭りでは人々が等しく供物の串肉を食べることが最も大切とされるのである。この串肉の名は、蒙古語で「哈喇嘛」といい、一串にされた雑肉という意味である。

この哈喇嘛と呼ばれる肉は、顎博の祭りだけに用いられるわけではない。蒙古族は羊をもつて食と為し、古来宴席には牛や羊の肉を用い、羊も丸ごと食してきた。以来結婚の披露宴や長寿の祝い、或いは顎博祭祀の宴会等において用意される料理として哈喇嘛がよく用いられてき

た。

「阿爾坦」額博と称されるものは、国を守護する神を祀るものとして供奉される。したがって蒙古の長官と人々は、四季折々に阿爾坦額博を参拝し特に尊ぶ。或いは兵士が出征する時や遠く旅に出る時には、皆先ず額博を拝み加護を祈って出発する。このように元來額博を尊ぶことを定めとし、何人と雖も額博の境界石内を馬に乗ったまま通過することは許されず、境界石の傍らで馬を降り、歩いて通過する。このような額博を尊重する定めは風俗として伝わり来たため、蒙古人は毎年額博に祀られる神々に供奉することとなった。後に喇嘛教が蒙古に入り、廟を築いて布教がおこなわれるようになると、それは甚だ隆盛となったが、にもかかわらず鄂博祭祀は定期的におこなわれ、消滅することはなかった。

額博祭祀の折りの詞

天神 地神 山河の神々よ

境内の人間が平安であるようお守り下さい。

本地の神霊よ

野獣が暴れず穏やかであるようお守り下さい。

四方の神々よ

牛馬羊家畜の息災と繁盛するようお守り下さい。

また蒙古の額博の祭りには人々が集まるため、諸々の事柄もそこで処理された。長官は訴訟事件に判決を下し、良馬の売買がなされ、そして境界の警備や各部落の問題などについて、すべて額博の祭りの際に処理される。したがって蒙古地方では約束される決め事は、皆額博の祭りで集まり議論し処理される。このように蒙古の額博の祭りは最も楽しく、そして賑やかな祭りである。

第四十七章 辺境地図

元來蒙古族は、その最古の時、国境地帯を定めることなく居住した。而して各族は境界線を明確にすることなく、ある範囲内を随時移居し遊牧をおこなっていた。その時代は蒙古の人口が一番少ない時代で、村には家畜の牧畜をすることを除いて他に何もなかった。このような風景が移りゆき、若干の時代を経た後、秦の始皇に至りて六つの国を平定し、萬里の長城を築き、胡族との境界を分けて関所を設けた。その後、蒙古族は初めて南の長き白い壁が境界線になることを知ったが、ただ長城がどこに始まり、東にどこまで続くかは分からなかった。始皇帝が長城を築いた時、蒙古族の居住範囲は、甘肅省の西の阿蘭善・青海・哈屯河・天山にあつて、北は貝加爾湖南岸に至り、そこが皆蒙古族の居住地で牧畜を営む地であつた。その頃の蒙古族は幾つかに分かれて国名もあつたが、ただそれぞれの範囲と国境の四方がどこなのか解らなかつた。ただ一つ解つていたのは、南にある長き白い壁が城内との境界となつていたことであつた。天山の北と貝加爾湖一帯が、蒙古族の先祖伝来の地であり遊牧地帯であつた。この範囲内にあつて、各族国の範囲は甚だ小さいと雖も、皆互いに団結し往来していた。そして成吉思汗の時、大蒙古を興し国号を創立した。各方面に三十六の兵營を構え、また詳しく国境地帯も定めた。その後元朝の浩伯來車臣汗の時に、汗族と台吉が分居することになり、浩伯來汗は自らの親派の分居を、もともと明らかな境界であつた天山南より長城嘉峪関に至るまでとした。また青海地方は額魯特族の原籍とし、天山の北から貝加爾湖南岸までを範囲とした。この地域は成吉思汗の兄の子孫であつた洪和台が興し、諸々の部族が居住していたため、この地域は通常喀爾喀河といつた。

そして天山の東から楊息木河までと、興安嶺以南から希拉木倫河ま

での地域は、成吉思汗の弟哈薩爾の子孫が居住し原籍とした。そして天山西部は土爾扈特蒙古のほかは額魯特族及び回鶻兒族、哈密族などが雜居し、伊犁新疆に至るまで境界が明確に定められていなかった。この他にまた烏梁海族及び土默特族の居住は長城の外で特に分けられ、北は希拉木倫河、東は楊息木河、南は長城古北口、西は木蘭嶺までの地域に居住を定められた。こうしてこの地は烏梁海族及び土默特族の原籍とされた。このように各族の居住地をそれぞれ各地方に分置し安定させた後、浩伯來汗は自らの本族の居住地を嘉峪関内の涼州地方に定め、代々の居とした。そして以来明朝に至り、喀爾喀南部に居住した哈薩爾の子孫は繁榮し、四つに分かれて、張家口に至るまで分居するようになった。この他に蒙古族の中でも強者は、部族を統率し任意に長城の外で移住し放牧をおこなっていた。そして満洲が中興し大清となると、康熙年間に至って蒙古を監督するために蒙古役所を設立し、内外蒙古と称した時には露西亞が強く勝り、貝加爾湖の南から喀爾喀色楞河の北岸の查達木に至るまでの地域に居住した、布利亞特族の蒙古人を露西亞国に加えた。そのためこの貝加爾湖の布利亞特族は蒙古に帰属していたが、露西亞国の統轄によって蒙古の北側の一部が失われた。

蒙古が大清の管轄下に置かれ、以来清朝の懐柔政策を受けた故に自らの政を統率するものが無かった。ただ皆それぞれ規範は守っていた。そして康熙五年、関内の各県が被災し人々の生活が困窮を極めると、関外への移住が進められるようになった。こうして古北口外から東海沿いにかけて、吉林省寛城子に至るまでの地域に、蒙古各旗から土地を借りて、被災した人々を居住させた。それから辺境線を決め規則を作り、漢人が辺境を越えることを禁止した。さらに各辺境に関門を設け官吏をおき、防御官員として兵士数名を配置した。主要な関門は、新台門・白土廠門・清河門・彰武臺門・法庫門・馬前臺門である。これらの関門は

蒙古の領地の境界地帯のほとんどを占めるように設けられた。

この範圍の外にも、古北口から張家口西までの地域では関門こそ設けられてはいないが、清朝が設けた検問所があった。しかし陸続きであったため、年来開墾した耕地に移民が増加していった。それらは皆蒙古の遊牧地を侵害しており、年を経るにしたがい開墾地が広がっていった。

そして光緒年間に至って、内蒙古の各旗は漢人を招いて荒野を開墾させ始め、旧例の定めた境界にしたがわず、それぞれ州と県に於いては、清朝の記した四方の境界線に近い旗が、空いている土地を定価よりも安い値段で売買をおこなった。故に内蒙古の荒野があった旗は、年々本来の土地の範圍が破壊され、もとに戻すことは出来なくなってしまった。そのため古代の旧地図があったとしても、今それを詳細に調べても、失われた元の範圍の前では原図も無益である。但し、外蒙古は今でも昔の地図のまま完全に範圍を残している。外蒙古の喀爾喀の昔の範圍は、北が露西亞と国境を接し、東は索倫山、南は戈壁沙漠嶺、西は阿爾泰山青海の境界線までである。この地域が喀爾喀の原籍地である。

元朝の図説に照らせば、蒙古科魯倫河の地図には周圍二万余里とあり、その地図の大部分を占めている。これを除いて遠く離れて散居する所や、嘉峪関内の涼州、あるいは甘肅などに居住する唐古特蒙古は、この科魯倫河の地図の内には記されていない。

このような状況は、清の宣統が退位して共和国が設立する時、内蒙古の旗主がそれぞれ率いた一族を伴い共和国に属することで、元の旗の範圍と人口を保持した。

そして外蒙古の四つの盟は、喀爾喀が露西亞と条約を結び民国から離脱し、所謂自治を独立して、他との境界を画した。こうして内蒙古の戈壁を分界に、東は黒龍江及び索倫まで、北は露西亞と隣接し、そして露西亞と蒙古との境界は、西の伊犁新疆にまで至った。この露西亞と民

国、外蒙古が独立した三国として、それぞれの代表が恰克図會議に集い、外蒙古の自治範圍を画定した。その後民国三年に至って、内外蒙古の地理全圖が画定し、外蒙古が独立し版圖が整えられたことよって、それまでの蒙古は二分されたため、蒙古が一つの国ではなく、内蒙古は民国に属することとなった。

詳しく見てみると、蒙古の版圖は元朝時代に至って甚だ大きなものとなり、大清以来徐々に衰退し土地を消失していき、民国八年に至っても内蒙古と外蒙古の地圖が断たれずに連なっているが、一部を除きそのほかの天山西部と青海の阿蘭善蒙古、土爾扈特蒙古、額濟納蒙古、唐古特蒙古などが居住した所は、昔の範圍を保持していると雖も、互いに遠く離れて散居したために一つにはなれず、皆各県に帰属し、省の管轄下に置かれた。

今、蒙古人が居住する所は三つの地域からなる。

それは内蒙古と外蒙古に跨る一つの地域で、海拉爾・呼倫貝爾・布利亞特蒙古で一つの地域を成し、そして青海額濟納で一つの地域となっている。

土爾扈特の一部は伊犁の統轄に属し、阿蘭善・唐古特の各土司は陝西省と甘肅省の統轄を受けている。ただ喀爾喀四部の王族だけは、昔の版圖を失わずに居住し今日に至る。これが蒙古の地圖の現状である。

#### 第四十八章 山河人名

この民族は、昔から山河に祈ることを最も重視し、移住の習慣から山河の神仙に詳しく、その名称を互いに呼び合う。而してこのような風俗から、人の到る所には皆地名がある。どの方向に向いているか、ある

いはどのような山河であるのか、また高い丘なのか窪みなのかによって名称が決められている。これらは蒙古語の名詞である。

戈壁とは、漢書では瀚海と書き、広大な砂漠を意味する。

喀爾喀とは、大門を意味する。喀爾喀が分居してからは、四部喀爾喀をさす。

額魯特とは、蒙古族の上等な姓である。

阿拉善とは地名で、黒白の土地をいう。

額濟納とは主のことで、後に姓にもされた。

愛曼克とは複数人称で、蒙古語の我々やあなた達の意を表す。

科爾沁とは會議や会合のことで、會議をおこなうことを蒙古語では科爾沁という。また科爾沁には三つの使い方があり、阿魯科爾沁と喀喇沁は会合や會議の意味であるが、郭爾羅斯は地名で、草木が生い茂った山河という意味である。

杜爾伯特とは人名で、勇壮の意味であるが、後に地名となる。

札賚特とは地名で、遠い野原の意味であるが、後に地名となる。

札魯特とは兵舎・兵隊の名で、蒙古語では連隊の呼称に用いられる。

一つの札魯特は兵士の数は千人か或いは五百人で一定しない。また後には地名となる。

奈曼とは人名で、八つの優れた能力を意味した。後に旗の名称となる。

敖漢という語は長男の意味である。後に改めて旗の名称となる。

翁牛特とは人名で、貴い者の意味である。この翁牛特という語は最古のもので、後に旗の名称ともなる。

阿魯科爾沁とは會議の名称であり、阿魯とは後半の意味で、科爾沁は議事会のことである。

は議事会のことである。

は議事会のことである。

は議事会のことである。

は議事会のことである。

は議事会のことである。

は議事会のことである。

は議事会のことである。

巴林とは兵舎の名で、小隊或いは中隊を意味する。後に旗名となつて大小の巴林がある。

克什克騰とは人名で、幸福を意味し、後に旗名となる。

土黙特とは人名で、極めて多い数の意味である。後に地名や旗名に用いられる。

烏珠穆沁とは兵隊名で、偵察或いは偵察者を意味する。後に旗名となる。

浩齋特という語は古跡を意味する。後に地名となる。

阿巴哈納爾とは呼称で、自分の父親や兄を呼ぶ時に使う。後にこの語は旗名となる。

蘇尼特とは人名で、夜明けを意味する。この蘇尼特も後に旗名となる。

茂明安とは官職名で、千戸長を意味する。後に旗名となる。

烏喇特とは役職名で、宿場の番役を意味する。後に旗名と地名となる。

鄂爾多斯とは建物名で、府或いは宅を意味する。後に旗名となる。

土謝圖汗、図什業図とは同類の官爵の名で、図什業図は補佐を意味し、汗は帝王の意である。後に旗主と爵名を指すようになる。

車臣汗とは人名である。車臣は聡明を意味し、汗は帝王の意である。後に旗名となる。

札薩克図とは役所を意味し、後に旗名となる。

賽音諾顔とは役職名で、賽音は善または良いを意味し、納顔は長官の意味で、皆諾顔と称する。

卡倫とは兵隊名であり、守備隊を意味する。

唐努烏梁海とは蒙古人の姓である。

塔爾巴哈台とは地名で、嶺のあるところを意味する。

衛拉特と烏喇特は役職名で、宿場の番役を意味する。この衛拉特は駅や宿場の馬の世話をし、このような所には必ず長官がおかれる。後に地名・旗名ともなる。

和碩特とは旗名で、その部落には四名の武官がおり、それらは皆和碩特と称される。

準噶爾とは蒙古人の姓である。

土爾扈特とは元は樹木の名であるが人名ともなった。この土爾扈特人の一族は繁栄し、以来族名となり伊犁に居住する。

阿爾泰とは地名で、背後の嶺を意味する。

額爾濟斯とは蒙古人の姓である。

科布多とは地名で、境界に位置する居住地を意味する。

輝特とは蒙古人の姓で、後に地名となる。

阿拉巴圖という語は、属する下人を意味する。

吉里吉思とは蒙古人の姓である。

巴里坤という語は西方或いは地名である。

唐古特とは蒙古人の姓で、同じ蒙古人にはあるが、この一族の言語は内外蒙古で異なり通じない。

烏魯木齊とは地名であり、凍った土地を意味する。

喀喇沙爾という語は、喇嘛或いは在家の信者を意味する。

烏什という語は先程の意味で、或いは人名にも用いられる。

阿克蘇という語は宿の意味で、後に地名となる。

庫車という語は、人を雇う費用という意味である。

安巴堅と阿保機という語は、貰うという意味である。

迭刺夷離董という語は、農夫または百姓という意味である。

大詳穩とは草葺き家という意味である。

朱里真という語は、兵役のある家という意味である。



完顔とは駅名で、蒙古の大きな駅では二二〇里離れることもあるが、小さな駅では六十里、中くらいの駅は八十里で一駅である。

按出虎という語は、雇われ農夫の意味である。

阿骨打とは馬名で、去勢された馬の意味である。

索倫とは地名で、森林のある深山の意味である。

達胡(呼)爾とは蒙古人の姓である。

忽魯という語は、会議または集会という意味である。

謀克という語は、待ち伏せという意味である。

猛安という語は、墓地または陵墓という意味である。

蒲里衍という語は、清々しいという意味である。

阿里喜という語は、肉料理または豚羊の類の肉料理を意味する。

助魯古特とは、蒙古の族名である。

烏魯古特とは、蒙古の姓である。

石墨特とは、蒙古の姓である。

枯倫湖及び呼倫貝爾と呼ばれるのは、同一の地名であり、足を凍えさせる湖という意味である。

麼忽という語は、肉という意味である。

孟骨子と野獣の名で、穴熊を意味する。

泰楚特または泰赤烏特と書かれるのは、蒙古の一族の姓である。

和林或いは科魯倫というのは同じ所で、科魯倫は河名で、水のきれいな河という意味である。

達魯花赤とは役職名で、路長または路頭を意味する。

喀喇沁という語は防御する者の住む所という意味で、後に地名となる。

西罈図庫倫とは地名で、西罈図は正位または堂の意味である。

庫倫は地名で、柵や兵営または庭の垣根の意味である。

賽爾烏蘇とは地名で、黄色の水がある土地の意味である。

烏理雅蘇台とは樹木の名で後に地名となり、野生の箱柳を意味する。

達爾罕とは功績のことで達爾漢とも書く。いずれも同じ意味をもつ

名詞で、従来から軍功ある者を記録し、後に子孫がそれを世襲し、皆達

爾漢として功御の位につく。

昌図とは、州県を意味する。

額爾克とは地名で、高い岡を意味する。

卓索図とは地名で、元は河を意味した。毎年夏になると、その周辺

部落の者が皆避暑に集まり来る。後に盟長の名になるが、蒙古語では避

暑地の意味で、そこに今もある卓索図河は漢音である。

昭烏達とは地名で、百の柳樹を意味し、後にこの地名を借りて、昭

烏達盟長と称される盟長の名もある。

哲里木という語は共同会議を意味し、後に盟の名に改めたのが哲里

木盟である。

烏蘭察布とは地名で、赤い沙の嶺を意味し、後に盟長の名となる。

伊克昭とは地名で、大きく高い岡を意味し、後にこの地名を改めて

伊克昭盟となる。

錫林郭勒とは河名で、傾斜する河を意味し、後にこの地名を借りて

盟長の名となる。

巴爾斯和屯とは地名で、巴爾斯は虎、和屯は城の意味である。後に

改められ巴爾斯和屯盟長の名となる。

罕阿林山とは山名で、罕阿林は王を意味する。烏蘭も同音で皇帝山

の意味である。

齋齋爾里克は地名で、花のような所を意味する。後に盟長の名とな

る。

畢都里雅とは西蔵語の地名で、瑠璃青(紺碧)を意味する。諾爾は

湖や水溜まり、または池の意味であり、後にこの地名が改められ畢都里雅諾爾盟長となる。

喀喇和屯とは地名で、喀喇は黒、和屯は城の意味である。

烏蘭哈達とは地名で、烏蘭は赤、哈達は石の意味である。

林丹汗とは蒙古国王の名で、林丹は西蔵語で靈を意味する。

額哲という語は、主または君主という意味である。

昆都とは役人名である。

丹噶爾とは役人に従う者の名で、隨行者とも言う。

察克達と契丹は同音で、巡視隊の意味である。

阿桂とは寺名で、蒙古語では山谷にある寺廟のことを皆阿桂と言う。

錫伯という語は、蒙古語で辺境に住む民とその頭領の名を皆錫伯と言う。

庫爾喀喇烏蘇とは地名で、黒い水の意味する。

沙畢納爾という語は地名で、弟子を意味する。

多倫諾爾とは地名で、七つの泉を意味する。

巴彥岱とは人名で、富豪を意味する。

塔勒奇とは官職名で、十家長を意味する。

伯克という語は、嚴重で緩みのないことを意味するが、人名でもある。

霍爾果斯という語は、不足を意味するが、空きも意味する。

開展という語は、料理或いは羊や牛を屠殺することを意味するが、

蒙古語では皆開展那という。

喀喇巴爾噶遜とは地名で、黒い柳の林を意味する。

瑪喇巴什とは地名で、瑪喇は家畜、巴什は牧場を意味する。

昌吉とは神を祭る廟名で、その社領を意味する。

濟木薩とは人名で、西蔵語では海を意味する。

賽音濟雅哈とは人名で、運命が良いこと意味する。後に土爾扈特地方蒙古地方の盟長の名となる。

烏納恩素珠克図とは文語の人名で、真心で教えを信じることを意味する。

青色特郭勒図とは文語の人名で、清らかで誠意あることを意味する。

巴啓色特勒図とは文語の人名で、一人で誠意を守ることが意味する。

綽羅斯とは爵位の名で、呼称或いはその職にある者等の呼び名や職名である。

察罕諾們罕とは喇嘛教の名号で、その最高の博学者は察罕諾們罕の名号を称することができる。その意味は清廉潔白な博士である。

阿勒坦諾爾とは地名で、光輝く池を意味する。

明齋とは誤写することで、蒙古語にはこの語がない。

孤独は蒙古語では該齋という。

海齋という語は、狭い所という意味である。

布克後申とは地名で、旧地址を意味する。

庫什固爾とは地名で、勾配の緩やかな山を意味する。

格登山という地名は、嶺の高い山を意味する。

呼図壁という語は、北方を意味し、後に地名となる。

塔勒納沁とは地名で、平坦な土地を意味する。

阿睦爾撒納とは人名で、本来のまま安心するという意味である。

霍集占とは文語の人名で、真の力を意味する。

默霍爾噶順とは地名で、禿山を意味する。

索果克とは地名で、低い木や小さな木が生えている所を意味する。

成吉思汗とは蒙古の帝王名で、慶樂（祝い喜ぶ）の二字を意味する。

幼名は「達木真」といい、天神の意味である。

哈布図哈薩爾とは成吉思の弟の名で、哈薩爾は補佐の意味で、弓矢

が上手いことから、全体的中という意味の哈布図という語を加えた。

布格必勒克図とは人名で、知恵があり強壯の意味である。

諤楚根とは人名で、単独または微少を意味する。

達延車臣汗とは蒙古国王の名で、達延は宇宙、車臣は聡明を意味する。達延車臣汗は明朝永楽年間の蒙古国王である。

阿爾坦汗とは、最古の時代、漢族の周魯列国の時、蒙古の額魯特族の国王で、その名阿爾坦汗とは金帝を意味する。

博羅濟克特氏とは、成吉思汗の元の姓である。

濟拉瑪とは、成吉思汗時代の烏梁海族の長官の名で、軍功が多いことから、成吉思汗が塔布囊の職位を与えた。後に濟拉瑪の子孫は、烏梁海を姓にして、塔布囊を世襲した。

默霍爾烏拉とは地名で、山の斜面または山頂を意味する。

恭博必塔氏とは人名で、西藏經典内の神名の呼称である。

濟農とは官名の呼称で、最古の蒙古語である。

諾顏とは官名の一つで、長官を意味する呼称である。

派噶木巴爾とは人名で、西藏語では意味が不明である。

阿奇木伯克とは人名で、強力または屈強を意味する。

謨罕窩特とは人名で、日々の平穩を意味する。

伊沙噶伯克とは人名で、真の強さを意味する。

商伯克とは人名で、堅実を意味する。

哈子伯と哈薩伯克は同音の人名で、補佐を意味する。

木特裡里とは人名で、古代印度語の仏教が伝来して以来、この名を用いることが多い。

巴濟吉爾とは人名で、西藏語で吉祥を意味する。

明伯克とは人名で、千年を意味する。

木蘭という語は狩獵を意味する。

木倫とは河を意味する。

哲布尊丹巴とは外蒙古喇嘛教の教主の名で、西藏の文語では北方菩薩を意味する。

抗愛山とは地名で、長い山川を意味する。

土拉河とは遠く繞る河を意味する。

烏蘭固木とは地名で、赤い丘を意味する。

鄂敦他拉とは地名で、広野または草原を意味する。

木素爾嶺とは地名で、水の凍った斜面を意味する。

舒爾漢とは地名で、林の中の狭い小道を意味する。

鄂爾多という語は、邸宅または官殿を意味し、皆そのように称する。

阿勒坦鄂爾多とは光輝く邸宅を意味する。

蒙古包とは蒙古の住家屋のことで、外側を毛布等を使って包んで修造されることから、このように呼称される。

帖木兒と鐵木眞、あるいは特穆津とは、皆人名であるが、時代の違いがあり、帖木兒は良い鉄を意味する。そして成吉思汗の幼名「鉄木眞」

を誤って「鉄木眞」または「特穆津」と書くが、蒙古人には「鉄木兒」という名の者が甚だ多い。

達布蘇諾爾とは地名で、塩の池を意味する。

喀喇烏蘇とは地名で、黒い水を意味する。

錫喇木倫とは、遼河または黄河のことである。

喀喇木倫とは、嫩江または黒龍江のことである。

察汗陀羅海山とは、白頭山のことである。

錫喇烏蘇とは、黄水泉のことである。

騰格里鄂喇とは、天山のことである。

達頼諾爾とは、海のような池という意味である。

坤都倫河とは、横河のことである。

傲木倫とは、大凌河のことである。

蒙古では地名を呼び表す時、山・河・水・石・樹木・嶺・野原・

池・泥・道などに分け、皆五色の名を加えて地名とする。

察罕とは白色である。

哈喇及び喀喇とは黒色である。

烏蘭とは紅である。

苦克及び庫克とは青である。

錫喇とは黄である。

博羅と伯鹿とは紫色である。

鄂喇とは山である。

郭勒とは河である。

木倫とは江である。

達頼とは海である。

諸爾とは、池または水溜まりを意味する。

布拉克と布羅噶とは、泉を意味する。

達布遜諾爾とは、塩の池を意味する。

巴顔諾爾とは、豊かな池を意味する。

錫巴爾台とは泥水の池を意味する。

薩拉齋という語は、分かれ道という意味で、後に地名となる。

哈魯蘇及び海拉蘇とは、皆樹木の名で楡を意味する。

固爾班察罕とは地名で、三つの白頭山を意味する。

察罕和硯図とは地名で、白鼻梁崗を意味する。

固爾班圖勒噶図とは地名で、三つの山を意味する。

巴延蒙克とは人名で、福があり隆盛であることを意味する。

布延と布顔という語は人名で、福を意味する。

額爾德尼陀羅海とは山の名で、宝頭山のことである。

託克託と託克図は音も意味も同じで、実相を意味する人名である。

察哈爾とは地名で、局以外の者が定めた集まる場所を意味する。

回鶻と畏吾兒は音も意味も同じで、これは民族の名称である。

阿木郎とは人名で、安樂を意味する。

阿哈瑪特という語は長男を意味し、蒙古語の中ではどの族の長男も

皆阿哈瑪特と称する。

陝巴とは地名で、前の嶺を意味する。

巴拜とは地名で、朝日の昇る地を意味する。

噶爾瑪とは人名で、西藏語で庚辛を意味する。

烏里雅蘇台とは地名で、楊樹の林を意味する。

阿哩雅とは佛名で、觀世音を意味する。蒙古人にはこの名がある。

阿爾薩蘭とは獣の名で獅子を意味するが、蒙古人にはこの名が甚だ

多い。

策（色）旺諾爾布とは人名で、西藏語で長寿隆盛を意味する。

今、蒙古で編纂された各種の文書を参考して、一部を詳細に精査すると、多様な名称の内には、特に人名に西藏語が甚だ多いことが認められる。この他に漢文で書かれた蒙古に関する書籍であっても、字体表記が統一されておらず、多様な字体を使用して書かれている。そしてその音を重んじ、意味を軽んじたことから、人名或いは地名に同音が多く、文字だけが乱雑に多くなっている。このように文字を書く欠点があるため、漢書で蒙古の歴史や様子を調べることが困難で、その真理を明らかにすることは不可能である。

この蒙古風俗録という書は、敢えて音と意味の両方を重視したので、全読者が蒙古地方の各種の名目の由来やあり方を知ることができる。